

令和元年度 学位授与式

学部教務委員 准教授 樋口 丈浩

令和元年度という節目の卒業式・修了式は近年まれにみる困難な状況であった。1月ころから中国で変な病気が流行っているぞ、という情報を耳にしている間に、横浜港に向かうダイヤモンド・プリンセス号に新型コロナウイルスに感染した患者が乗っているという情報が世間を騒がせた。2月の上旬から中旬まで、おそらく世界の目が最も横浜に向けられた2週間と思われる。

大学では例年通りセンター試験、学科試験期間、論文審査会、前期入学試験が行われてきた。その直後の2/27、学長より卒業式・修了式の中止が突然アナウンスされた。また、各教室で行われる学位記授与式についても、1度に50名以上の人数を集めないこと、できるだけ短時間で実施すること、人の動く動線を設定することなど、様々な指示が送られてきた。その中に、卒業生・修了生以外の参加の禁止、祝賀会等の自粛も含まれていた。例年、学位記授与式では弘陵造船航空会会長による祝辞、同主催の祝賀会が催されてきたが、それらの中止も決定した。最終的に、卒業生37名、修了生24名は別々の時間帯での学位記授与、座席も指定、学位記は代表者のみが直接授与というこれまでに

無い形式での学位記授与式となった。

学部卒業生の学位記授与式が先に行われた。学位記授与式は開会の辞に続き、代表者への学位記授与がEP代表の日野教授により行われた。例年は卒業生全員に手渡しをするのが通常ではあるが、今年度は代表者のみへの授与となった。学位記授与に続き、日本船舶海洋工学会奨学褒賞、日本航空宇宙学会賞学生賞、弘陵造船航空会賞、船舶海洋工学賞がそれぞれ1名ずつに贈られた。

各賞授与に続き、教室主任の岡田教授から式辞が述べられた。この難しい時世に新たな門出を迎える学生に、伊藤忠商事の企業理念である「三方よし」を紹介された。「三方よし」とは伊藤忠商事の創業者伊藤忠兵衛がルーツとする近江商人の経営哲学であり、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」と単なるwin-winの関係のみならず、社会を含めた持続的な経済活動を目指すというものである。学生には目先の利益にとらわれることなく広い視野で物事を見るよう努めようというメッセージを込めて伝えられた。



式辞の後、閉会の辞を受け、学部卒業生の学位記授与式は 15 分弱で終了した。例年行われる祝賀会、謝恩会は行われず、卒業生は学位記を手にも速やかに船舶海洋工学棟玄関に移動し、記念撮影をもって解散となった。

学部卒業生が退出した後、すぐに大学院修了生の学位記授与式が行われた。会の流れは卒業生の学位記授与式に準じ、司会は大学院教務委員の宮路准教授、学位記授与はユニット長の岡田教授が行った。授与式はわずか 10 分程度で終了し、記念撮影後解散となった。

このような形で、卒業式・修了式を迎えることになったことを心苦しく思うとともに、年度が明けて未だに先の見えない状況である中、新たな門出を迎えている卒業生・修了生の心境は察するに余りある。中には卒業旅行に伴い来校自粛要請を受け、学位記授与式にさえ参加を見送った学生も数名いた。新年度を迎え、新社会人となった卒業生からはすでに自宅待機・オンラインでの研修を

行っているとの声が多数聞こえてきている。

昨今 Sustainable Development Goals (SDGs:持続可能な開発目標)が掲げられる中、まさに、環境のみならず、健康や経済においても如何に持続可能な社会を構築するかが大きく問われている。高度情報化社会に合わせた新しい社会の在り方が問われているが、本教室で学んだ知識や培った人間関係をフルに活用しつつ、大きく飛躍してくれることを願ってやまない。



学部卒業生



大学院修了生